

第1回葉山町総合教育会議 会議録

- 1 開会年月日 令和3年7月21日(水)
- 2 開会場所 保育園・教育センター 会議室
- 3 出席者 町長 山梨崇仁
教育長 稲垣一郎
教育長職務代理者 小峰みち子
教育委員 鈴木伸久
教育委員 水沢勉
教育委員 下位勇一
- 4 出席職員 教育部長 田丸良一
教育総務課長 虫賀和弘
学校教育課長兼教育研究所長 濱名恵美子
生涯学習課長 中川禎久
学校教育課指導主事 松本美穂
政策財政部長 伊藤義紀
政策課長 佐野秋次郎
- 5 議長 町長 山梨崇仁
- 6 書記 教育部長 田丸良一
- 7 開会 午後1時58分
- 8 閉会 午後3時26分
- 9 協議事項 (1) 葉山町教育大綱について
(2) その他

(開会宣言)

教育部長) ただいまから令和3年度第1回葉山町総合教育会議を開会いたします。
時刻は1時58分でございます。

総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定により設置され、同条第3項の規定により、町長が招集することとなっております。また、地方公共団体の長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議及び調整の場という位置づけであり、会議において調整がついた事項は、それぞれが尊重義務を負うものの、この場で決定を行うものではありません。また、地方公共団体の長の諮問に応じて審議を行う諮問機関でもないことを申し添えます。

それでは、総合教育会議設置要綱第4条の規定により、町長が会議を招集し、その会務を総理するとなっておりますので、これ以降の進行は山梨町長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

町長) 改めて、皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中をお時間頂きまして、誠にありがとうございます。それでは、総合教育会議式次第にのっとりまして議事を進めてまいりたいと思います。

(協議事項1 葉山町教育大綱について)

町長) では、お手元の次第(1)葉山町教育大綱についてでございます。本日、政策財政部のほうから出席をいただいておりますので、政策財政部事務局、説明をお願いします。

政策課長) 政策課長の佐野と申します。日頃大変お世話になっております。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて説明させていただきます。

お手元に配付させていただきましたA3判の2枚つづりの「葉山町教育大綱(案)新旧対照表」によりご説明させていただきます。

まず、こちらの教育大綱につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づきまして、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針、これは教育振興基本計画になりますが、こちらを参酌し、その地域の実情に応じ、地方公共団体の長のほうで当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として定めるものとされているところでございます。

現在、本町では平成29年度から平成32年度(当時)、これは令和2年度になります。までを計画期間として、こちらの教育大綱を策定しているところでございますが、計画期間の満了に伴いまして、新たに令和3年度を初年度とする教育大綱を策定する必要があり、本日の協議事項とさせていただいたものでございます。

現在の葉山町教育大綱につきましては、第四次葉山町総合計画基本構想の基本理念1「人を育てる」を基本理念に掲げ、それを実現するための基本目標と施策を第二次の葉山町教育総合プランにのっとり掲げさせていただいているところでございます。今回こちらの策定案につきましては、基本的には現在の葉山町教育大綱のスキームにのっとり策定させていただいているものでございます。

まず、資料の1ページ目をご覧ください。新旧対照表の右が現在の教育大綱

で、左側が新たに提案させていただく教育大綱でございます。まず、教育大綱策定に当たってという部分につきましては、冒頭この今説明いたしました葉山町の教育大綱というものの法的な意味づけを説明させていただき、その大綱が第四次の葉山町総合計画基本構想の基本理念「人を育てる」を掲げて、それを実現するための基本目標と施策を、今度新たに令和3年3月に教育委員会のほうで策定されました第三次の葉山町教育総合プランに沿って策定するということを書かせていただいております。最後のセンテンスでは、長の思いとして、子どもたちの健やかな成長なくして町の魅力を将来に受け継いでいくことはできない。また、教育委員会として地域が一丸となって子どもたちを見守り、育てていく葉山であることを目指して、本大綱の目標の達成に向けて取り組んでいくというメッセージが記載されております。

次ページをご覧ください。2ページ目の教育大綱の期間でございます。先ほどご説明申し上げましたとおり、こちらの計画自体が教育委員会の策定する教育総合プランの期間と合わせて作るということが、この教育大綱それから町教育委員会の一体とした教育行政の進める方針としてふさわしいということで、今回も第三次教育総合プランの計画期間、令和3年度から令和6年度までの4年間と合わせるというふうにさせていただいているものでございます。

3枚目の基本目標と基本施策。その新旧対照表でアンダーラインが引かれている部分が今回見直した部分でございます。

3番の基本目標と基本施策につきまして、こちらについて基本目標につきましては、葉山町総合計画で定める基本目標、これを教育総合プランのほうでも基本目標として置いているんですけども、これと合わせて書いております。こちらにつきましては従前と変わっておりませんので、そのままにさせていただいております。

以降、大きくは基本目標の1と、それから4ページから始まる基本目標2というふうに大きく分かれるんですけども、基本目標1が学校教育の分野、それから基本目標2のほうが生涯学習その他の教育施策に係る部分でございます。

基本目標1につきましては、2ページそれから3ページに7項目が書かれていまして、それぞれ、それぞれの施策に1項目がありますが、こちらについては第三次教育総合プランに合わせて、その施策の体系に基づいて記載しているものでございます。

4ページにつきましても、同じく基本目標2、だれもがいつでも学べ、交流し、心身ともに豊かで暮らせる環境を整える。こちらにつきましては、生涯学

習分野の取組を5ページの8番から12番まで、5つの項目について、こちらでも第三次教育総合プランと合わせて記載しているものでございます。

5ページの一番最後になるんですけれども、こちらには従前に書いてありましたとおり、冒頭説明した中でございましたこちらの大綱の策定が地方公共団体の長が策定するものということですので、こちらの編集の責任者を葉山町政策財政部政策課ということで、町部局で作成したということを一明らかにするために記載させていただいているものでございます。

こちらについては、今、町部局のほうで最終案の段階でとりまとめさせていただいて、本日こちらでご協議いただく中で、ご意見等があれば、こちらのほうを踏まえて策定していきたい、そんなふうに思っております。

大変雑駁ではございますが、説明とさせていただきます。

町長) ありがとうございます。私のほうから補足で申し上げたいと思いますが、内容は教育総合プランにのっとったものとなっております、冒頭のところも文章を書き換えてあるようにご覧いただけるかと思うんですが、文章の構成を変えたわけでありまして、意味的に大きな変更は特にございません。教育大綱そもそもが教育基本法に基づく国の教育基本計画にのっとり、それを参酌した上での大綱の制定というふうに聞いてございますので、皆様教育委員会として定められたものについても十分尊重した上で大綱を定めていくべきというふうに考えております。

その中で、むしろ私としましては、この前文の下から5行目の真ん中ですね、指導体制の充実、心身等の発達段階の顕著な変化が近年あるということ、そしてそういったものを含めて、稲垣教育長のことばを借りると、VUCAの時代と言われる、先読みとの不可能な、不測の事態に対して耐えられる人材の育成をしていこう、資質能力の育成をしていこうということに対して、ぜひ力を入れてほしいという、自分の思いとしてはここにピックアップをすることで表したまででございます。基本的には教育基本計画の中にも入っているものでございますので、こういったことを私としては出すことで、皆さんと一緒に歩いていこうという意思を明確にさせていただきました。前回初めての大綱の策定でしたので、受けてという形で多かったんですけれども、申し上げたとおり、町からの発信ということですので、私の言葉でこういう発信をすることで、共に同じ方向を向いているということを一明らかにさせていただいたものです。

私からは以上でございます。皆さんからほかに内容等、質問、ご意見ございましたら、ぜひ頂きたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

鈴木委員) この給食センターの件なんですけれども、今回の指針に学校給食センターの整備って入ってますよね。これは、ここまではいかないにしても、給食センターの状況、ちょっとまだ把握できてない部分があるんじゃないかと思うんですね。私はそうじゃなくて、ここはやっぱり中学校給食の充実とかですね、絞った形のほうがいいんじゃないかなと思うんですけれども。その下に小学校給食施設の維持管理というのが入っているわけですけど、給食センターについてはこの4年間の間に整備計画がなかなか難しいんじゃないかと僕は個人的に思っているんですけど、町長のお考えあると思うんですけど、給食センターの整備という書き方じゃないほうがいいんじゃないかなと思ったので、ちょっとご質問させていただきます。

町長) 給食センターの今現状が、まさにコロナ禍における経済的な先行きの不透明さ、それから昨今、7月の冒頭の大雨のように、土砂災害に対するリスクが高まっているということで、今、町が想定をしている場所の開発、それから開発の計画そのものが、金銭的な面と盛り土等の扱いについての慎重論があるということと、私としては危惧をして今、議会ではとめている段階にあります。実際には、令和2年度の初頭に給食センターの設置については議決をもらって予算配分を頂いていることから、本計画をやめるという判断は今のところありません。ただ、そういった情勢を鑑みて、今、停止をしている段階でありますので、あくまで政策的には推進をしていきたいということから、こちらのほうを文言として載せさせていただきました。また、お話しのように中学校給食を進めることが本質的なスタートになっていきますので、鈴木委員がおっしゃるとおり中学校給食もぜひ違う視点で始められるものであれば始めていくべきということが今、議会で議論しておりますので、そこも大事な視点として保持していきたいとは思っております。

鈴木委員) ありがとうございました。

町長) よろしいでしょうか。ありがとうございました。そうしましたら、教育大綱につきましてはこの形でまとめて、最終的な文言整理を行った上で、公表にかけていきたいというふうに思っております。

それでは、議事の1番、葉山町教育大綱については以上で終わりたいと思います。

(協議事項 2 その他)

町長) それでは(2)その他に移ります。事務局よりその他案件ございますでしょ

うか。

教育総務課長) 大綱と第三次プランが先ほど政策課長の説明で整合を図っているということなので、少しその計画の中身についてお話をさせていただいてよろしいでしょうか。

町 長) はい、お願いします。

教育総務課長) こちら、A4の横のカラーの資料を使って少しお話をさせていただきたいと思います。

表紙1枚おめくりいただいて、お話ししたい内容は2点ございます。1点目が、施策の体系とそこでの主な取組について少しご紹介をさせていただきます。2点目が、その中でも重点的な協議をお願いしたい事項として、小中一貫教育とコミュニティ・スクールの件を載せております。ここに関しては、プランの中でも重点的な扱いをするというものになっておりますので、ここについて少し詳しく説明をさせていただきます。

では、1枚おめくりいただいて、ページの右下に2と書いてあるページです。こちら先ほど説明がありましたとおり、上の1から7、青い部分が学校教育に関する部分、8から12の緑色の部分が生涯学習に係る部分です。

まず1点目、未来につなげる教育施策の推進。こちらに関しては、小中一貫教育とコミュニティ・スクール、教育委員会で言う4年間で重点的に取り組む施策として抜き出したものです。というのは、第二次プランと第三次プラン、比較したときに、やはり4年間という時間を意識したときに重点的に取り組むものというのがあるのではないかというご指摘が4年間運営する中でありました。そうした指摘を受けまして、ここに重点を置くと。もう1点、二次と大きく違うところとしては、二次のときには教育委員会の施策というものと学校がそもそもやらなければいけない施策、施策の主体の捉え方が少し曖昧な部分があったというふうに総括をしています。その総括の中で、実際に例えばインクルーシブみたいなものに関しては、学校で行われる様々な取組に関して意識するものだと、そういうものは基本認識として扱うべきではないか。以前、二次のときには施策の柱のような表現で、ここだけでやるというような誤解もあったというところもありまして、そういうものを見直しています。

その次が、2点目が、新しい時代に必要となる資質・能力の育成。これも「未来」「新しい」と並んでいるんですが、1のほうはどちらかという教育課程に焦点を当てています。2のほうが学習指導に焦点を当てているような形になっています。特にこの新しい時代に必要となる資質・能力の育成では、町のほ

うで端末、子どもに1人1台化を配置していただきまして、午前中の教育委員会の中でも、かなりそれを使いこなすような状況になってきたというところがあります。ただ、それを全て使いこなすというところではまだないという話なので、そういうところに関して特に注意を払って進める必要があるというふうに思っています。

3点目、「豊かな心」の育成。こちらは総合的な学習の時間のマネジメントみたいな話を中心になってくるのではないかというふうに思います。総合的な学習の時間自体は、20年ほど前の学習指導要領の改定により設けられたものですが、それから20年、葉山町の中でどれほどそういう深化をしてきたかというのは、大きい課題ではないかなと思います。先週になりますが、小中一貫の関係で、つくば市のほうに視察に行っていました。つくば市では、つくばスタイル科という科目を道德の時間を少し割いて、生活科も少し割いて、総合的な学習の時間を全て充てて、特別活動の時間も少し割いて、その地域ならではの学習のプログラム、教科書がないかわりに、つくばではそういうもののプランを、単元に関するプランのようなものを作って、学校でそれが進められるような助力を教育委員会のほうでやっている。ですから、そういうことを考えますと、先ほどのVUCAの話もありましたが、課題を自ら見つけるような学習というところに関して力を入れるのであれば、そういう取組を葉山としても積極的にやらなければいけないかなというふうに考えております。

4点目、「健やかな体」の育成。これは今、鈴木委員にご指摘いただいて、まさに給食センター、こちらが大きな課題になっていると思います。町長からお話のあった中学校給食の早期実現という点では、本日5時までを期限としてサウンディング調査の業者の募集をしております。午前中の段階でも複数の業者から申込みがございましたので、調査自体は成立するという見込みでございます。調査結果に関しては、8月下旬にはまとめられると思うんですが、その報告を受け、さらに事業化を検討することになりますので、時間はもう少しかかるようになると思いますが、皆様にはそういった速報が出せる段階でご報告と、検討が進んだ段階で進捗をまた改めてご報告させていただければと思います。

それから5点目、多様なニーズに応じた支援、こちらでは特に不登校の問題、こちらが注視すべきかなというふうに考えております。小学校のベースで、コロナの影響があった単年度の数字で拙速な判断は危険だと思いますが、令和元年度ベースで15人であった不登校が令和2年度ベースで26人と増加しており

ます。中学校では 25 人であった不登校が、令和 2 年度 30 人に増加しております。これは複数年、5 年単位ぐらいで見て、顕著に増加傾向にあるとまでは言えないんですが、それでもそういう危険というか、可能性を秘めているような数字の動きではないかなというふうに思います。こちらはその全ての不登校のお子さんが、全て引きこもっているわけではなく、例えばフリースクールであったり、葉山町で言うヤシの実であったり、そういうところに通われているお子さんもいらっしゃいますが、全てがそういうわけではないので、お子さんの教育委員会の捉えとしたり進路として捉えて、どのように指導していくか。これは町の子ども育成部門との協力も必要なかもしれませんが、教育委員会として果たすべき役割としてはそういう捉えとして対応していく必要があるかなというふうに思っております。

それから 6 点目、働きやすい環境づくりと指導体制の充実。こちらは昨今教員の働き方改革というのが盛んに言われているんですが、やっぱり一方では教員の人材育成というものが我々にとって大きな課題になっていると思います。葉教研のように、今までは教員の皆さんの自己研鑽に近いような形に頼る部分が幾分教育系の分野では強かったかなと。ただ、今後に関しては、やはり組織的・戦略的に教育委員会が人材を育てるということを真剣にプログラムを組む必要があるんじゃないかと。この辺りに関して、神奈川県と共に、人材の育成に努めてまいりたいというふうに考えております。

それから 7 点目、学びを支える学校環境の整備。こちらに関しては、みんなの公共施設みらいプロジェクト、町の公共施設全体を捉えたプロジェクトがコロナの影響で中断しておりましたが、今年再開をしております。教育委員会としては教育施設チームというのをつくっていただいて、学校施設だけでなく、生涯学習施設も含めて、町と協議をさせていただける環境が整いましたので、本年度中、何らかの方針なり方向性が見えれば、改めてまたご報告できればというふうに思います。

それから、ここからが生涯学習に関する部分。まず、8 番の生涯学習の振興。こちらは主な取組としては、やはり講座ではないかと思っております。公民館であるとか町民大学のような講座、こちらの講座に関しては、内部の検討では、例えば町は環境の非常事態宣言などを出しておりますので、そういうまちづくりに関わるような、あるいはまちづくりを始めていただけるようなきっかけとなる講座のようなものが開けないかということを議論しております。同じように、例えば葉山だと商工会などを中心に葉山塾などと称してまちづくり人を講師に

招いているいろんなことをやっているんだと思いますが、葉山町としてもそういう取組が必要なかどうか、改めて政策課などと生涯学習と協議を始められればいいなというふうに思っております。

それから9番、青少年の育成。こちらに関しては、青少年の体験交流会などを企画しております。全ての企画において、ご参加いただいた方に高く評価いただいております。ただ、一方では行政としてどこまでそういう事業をですね、イベント的なものを実施すべきなのか。あるいは青少年の育成というものが体験・交流に現状偏りがちなんですが、新しい形の施策の展開ができないか。例えばコロナを端緒に生まれた放課後サポート教室のようなものを礎にして、何らかの青少年の育成というものができないか、そういうものを模索し始める時期ではないかというふうに考えております。

それから10番、生涯スポーツ活動の推進。こちらに関しては、2点大きくあると思います。総合型地域スポーツクラブを設立しようという動きです。こちらに関しては、まちづくりと同様のことが言えると思うんですが、民間の団体の自立を促しながら、一定の公共サービスを担ってもらうことの難しさというんでしょうか、こういうところに大きい課題があると思います。ただ、そういう課題がある中でも、やはりスポーツに関する町民のニーズというか、そういうものの意識の高さや広さは普遍的なものがございますので、何とかスポーツ活動が町全体で盛り上がるよう、何らかの仕掛けが必要かなというふうに思います。

それから、南郷公園。南郷公園に関しては、次の11番にあるしおさい公園と併せてお話ししたいんですが、こちらに関してはやはり多くの金額が維持費がですね、年間かかっております。その一方で、そのサービスの性質みたいなものの充実というのねらっていかなければならない。東京都内なんかでは、盛んに給食と同じようなサウンディング調査みたいなもので、維持費を捻出しながら、なおかつそれぞれの施設の魅力を高められないかというような取組が盛んに行われています。これは後ほど少しお話しいただければと思うんですが、例えばしおさい博物館などは隣にあります近代美術館と比べて入園者数というんでしょうか、利用者数が大分差があるという話を、報告を受けております。女子旅なんかで人気のところがあって、人が来ているにもかかわらず、しおさい公園に寄っていただけない。もちろん近美そのものの魅力があるので、単純な比較ではないんですが、もしそこまで足を運んでくださっている皆さんがいらっしゃるのであれば、しおさい博物館、しおさい公園の魅力もさらに高めら

れる工夫がないのかというふうを考えております。

12番、図書館サービスに関しましては、こちらは在り方検討を昨年まで行っておりまして、専門家の方々から様々なご意見が出ています。ですから、貸出冊子数だとか、それから閉館時間、そういった改善ができるものから順次、本来ならば施設をいじるような大胆な改革もあるんですが、できることから着実に改革を図ってまいりたいというふうに思っております。

少し早口だったんですが、施策の体系の説明は以上です。もし町長、よろしければ、そのまま重点の小中一貫の説明を。

町長) はい、お願いします。

教育総務課長) 1枚おめくりいただいて、下に3と書いてある資料です。こちらが昨年在り方検討会議、小中一貫教育の在り方検討会議というのを教育委員会の職員と教職員数名の組織で検討してきた中で、必要性ですね、そもそもなぜ必要なんだという背景や理由を整理した資料になります。1、2、3、少し大きさが変えてあるのは、3が最も重要だというふうに在り方検討の中で議論されたので、このようなレイアウトになっています。

まず1、中一ギャップ、小中ギャップに関しては、これまでも皆さんの中で議論されていたように、指導体制が学級担任制であったり、それが教科担任制に変わるとか、制度そのものが大きく違う。学校文化そのものが違うので、中1と小6の間のギャップというよりは、小と中の大きいギャップがあるという制度上の課題がある。

2点目は、町長の話にもあった発達段階の顕著な変化。子どもの身体的・生理的・心理的成長が数十年前より大分早くなってきていると。古いデータですが、民間の2000年ごろの調査では、やはり例えば女子の生理を経験する子どもの割合みたいなものが、小学生で50%ぐらいの数字になってきているとか、かなり成長が著しく変わってきている。子どもの自己肯定感みたいなもの、小学生のころは皆さん、みんな肯定されているということがありますが、中3になってくると8割、9割の子が肯定されていないという気持ちに変わってくる。そういう子どもの身体的・精神的変化に対応しなきゃいけないんじゃないか。これは六三制とか五四二制とかそういう制度の検討のベースになる話かなというふうに思います。

それから3番、この3番が在り方検討の中でも特に重要なのではないかと。新しい時代に必要となる資質・能力の育成、先ほども出ましたが、予測困難な時代、VUCAの時代、やはり主体的・対話的で深い学びを実現しなければな

らないんじゃないかと。みずから課題を見つけ、解決策を模索していく。我々大人であっても、役場の職員であっても、果たして問題を正確に分析をできているだろうか。その上で、課題を適切に選定し、解決策を検討するようなアプローチができているだろうか。我々ができていないから今の子どもたちには義務教育の段階でそういうものが必要だとあえて言われてしまっているのではないかと。そんなふうには思っております。そういう点では、町長の最初の「はじめに」のところにあったように、ここは教育委員会としても、やはり非常に重要視すべきところなんだろうというふうに捉えています。

1枚おめくりいただいて、4ページ。ここでは少し小中一貫教育とコミュニティ・スクールの連携のモデルについて話をしたいと思います。この小中一貫の話は今、少しさせてもらったので、全然違うエッセンスとして、こういった話には必ずしも日本国内だけではなくて、世界に目を向けても、OECDのエージェンシーとして変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力、こうしたものを育むことが大切なんだと。世界中の運動というとは違うかもしれませんが、世界中の動きになっているのではないかとこのように思います。

こういったことをやろうとするときに、やはり小中一貫教育、9年間を使って考えるというのは、極めて有効な手段なんじゃないかなと教育委員会では捉えています。なおかつ、ここでコミスクとのモデルというふうにしたのは、コミスクというのはご承知のとおり学校運営協議会というのを設置した学校のことをコミュニティ・スクールというんですが、そこでは学校運営協議会というところで、学校が求める小中一貫教育の中での総合的な例えば学習なんかでの教育課程でこんなことを子どもたちに学ばせてみたいと、そういうニーズが明確であれば、生涯学習系の協働活動をマッチングさせることができるのではないのかなと。今も盛んに、例えば葉山ですと南郷中学校などで職業体験とか、そういう活動をやられているんですが、誤解を恐れず言うと、ややもすると散発的な取組になっている部分もあるんじゃないのかと。カリキュラムとして何を狙って、どういうことをしているのかというのが、必ずしも明確になってないのではないかとこのように教育委員会の中では議論がありました。

そうした場合、やはり先ほどのつくばのつくばスタイル科のような話もしましたが、学校側が教員一人一人が悩んで悩んで、どういう教育課程をやっているのかということをはっきりと明らかにし、それに対して地域の方々が助力できる部分があるのかとお考えいただくような流れができれば、一つ小中一貫教育と

コミスクというのが有機的に連携し、接続され、大きな効果を生むのではないかなど。

さらにそこにもう一つ加えると、葉山町役場でもSDGsや気候非常事態宣言、はやまクリーンプログラムなどの世界を見た動きを加速させています。我々職員も、学校がお許しいただけるのであれば、子どもたちの気づきの部分ですね、今、葉山の海ではこんなことが起きているんだよとか、そういうことを身近なテーマからいろいろなこととお話する、そんなことができるんじゃないかな。市民活動家の皆さんのように、詳しい知識だとか考える機会や行動のきっかけみたいなものまでは提供できなくても、気づきの部分、お子さんが学びを始める気づきの部分は、役場の職員にも参加させてもらえる機会がもらえればありがたいなというふうに考えています。こんなモデルをやるのが、小中一貫教育とコミスクを一体的にやるというイメージは、我々の中でこんな形を想定しています。

それから、最後に5ページになります。これは小中一貫教育校の開設や深化に関するあくまで現状ではイメージです。このイメージに関しては、今また検討の会議を重ねておりますので、しかるべき段階では正規の案として教育委員の皆さんや町長にはご報告、ご提案させていただければと思います。

まず、先ほどお話ししたように、令和2年度、小中一貫教育の在り方検討会議というのを開きまして、ここでは今まで、何ていうんでしょう、小中連携教育といいますか、教員の交流を中心とした取組をしてきましたが、9年間を見通したカリキュラムを作るんだという小中一貫教育へ政策を転換しようということを確認しています。その上で、令和7年4月、今からおおむね4年ぐらいいすかね、時間をかけて、施設分離型、今の校舎を使って小中一貫校というのをスタートするというのが目標として明確に設定できないかというふうに今は考えています。検討会議には県の職員にも参加していただいている、他地域の実例からすると、4年程度をかけて小中一貫校の開設というのは時間的には決して無理のないスケジュールだという評価をいただいています。今年、令和3年度に関しては、令和2年度の検討が不十分だったというわけではないんですが、事例研究などが十分に、コロナの影響もありまして、できなかった関係で、課題が必ずしも明確ではなかった。例えば、先週先ほど言ったつくばなんかは、重点教科というのは、つくばスタイル科の一本に絞っている地域でした。それは教育委員会が力強く推進をする。それ以外の部分に関しては、ある程度、学校のほうに教育の中身の深化はお任せするという組み立てになっ

ていました。横浜のように横浜版学習指導要領などを作ってしまうような地域もあります。葉山では、どこまでを重点教科として取り組んでいくか。こういうものをどこまでそろえれば小中一貫校として開設をするというふうに世の中に公表できるのかという課題を明確に今年したいと思います。その上で、その課題の克服に向けて、令和4年から6年、どういう行動をとるのかという、計画書というのを作るかは分かりませんが、事業計画のようなものをまとめた上で、またご提案したいと思います。

その上で、葉山町のこれからの流れの中に、1つ令和7年1月に町制100周年を迎えるという節目の年がございます。この節目の年に我々とする小中一貫教育の中身を深化させながら、さらにそれを深めるためにですね、将来の教育施設はどうあるべきなのか。そういうものが公表できれば非常に望ましいのではないかと。葉山の未来のまちづくりや教育の在り方を町民に向かって宣言する。そうしたことによって、施設関係では、我慢をしていただくことも多いと思います。今までのように6校全てを直したり、全ての学校に体育館やプールがあるということはかなわないかもしれません。しかしながら、一方では未来を見越してこういう新しい価値観を持った学校施設を建てるんだということが公表できるだけの裏づけができれば、非常に望ましいんじゃないかなという、現状では目標の域を超えてないんですが、目標というか、組織の目標というよりは、まだチームの中の目標ということで、決してこの場でどうこうという話ではないんですが、そんなふうに町制100周年が位置づけられればいいなというふうに思っております。

その上で、そういうビジョンを公表してから10年とか15年後ぐらいに、そういう施設の再整備というものが始められれば、一定の周知期間もあり、学区を考えたり、転入・転出などを考える方々にも影響が少ない形で事業が図れるのではないかなというふうに考えております。

少しとりとめのない話もありましたが、教育委員会として第三次プランの中で考えていること、重点的に取り組むもののイメージというものの説明は以上です。

町長) ありがとうございます。一番最後の5ページ目が鍵かなと思いますが、小中一貫という形で様々な課題に対応していこうという流れ、それにのっとった施設も必要だということから、先々を見てという考えですけれども、町制100周年、期間の残り3年半で迎えますので、もうすぐという気持ちで100周年に臨んでおります。教育に関しても100周年で打ち上げられたかというふうに思

うんですけれども、また皆さんとその間、議論をしながら向かっていきたいなと考えております。

まず、皆様から本件につきましてご質問等ございますでしょうか。

何かご意見ございますでしょうか。本件につきまして。

下位委員) 私が気になっている点をお話しさせてください。今、虫賀課長のお話の中にもありましたが、下に3と書いてあるページの3番の部分です。葉山小学校の教育目標に、自分で考え行動する子というのがあります。これがなかなか実現できていないのではないかなと、これは葉山に限らないことですが。といいますのも、私も民間で採用の面接をしたりすることがあるんですけれども、大学出てきたての子どもたちが自分で考えないんですね。実際に採用して新社員さんになって働いていただいても、やってくださいと言ったことはしっかりこなします。でも、何も言わないと何もしないで、ぼうっとしているというような社会人が今、非常に増えているような気がします。学校の子どもたちとか保護者を見ていると、いい学校に入る子どものほうこそ、親から勉強しなさい、何時から何時まで塾に行きなさい。全て親に敷かれたレールの上をきれいに歩いて行くと、私立の中学校に入れるとか、いい高校に入れるとかというような雰囲気があると思います。いい学校に入るのはとてもいいことだと思うんですが、結果、社会に出てから適応できない若者をいっぱい見てきたので、今の葉山町の取組、総合プランのほうに入っている内容なんですけれども、自分で考えて自分で行動できるような子どもを育てていく、というような取り組みが、ちょっと一つ入るといいかなということを思いました。

町長) ありがとうございます。

鈴木委員) 葉山はね、夏の時期というのは放っておいても観光客がいっぱい来るわけです。冬の時期というのは、なかなか苦しい状態。僕の情報が合っているかどうか分からないんですけど、ダイビングスポットとして、僕は全然知らなかったんですけど、ウミウシのメッカだそうです。ウミウシというのは世界で2,000種類ぐらいあるそうですね。葉山は必ず見れるぐらいのスポットだそうです。町内のダイビングショップ・ナナの方が、東京でも知らない人がいないくらい力があって、この方のお力を借りながらね、ぜひ冬の海を、ダイビング講座みたいなのができれば協力していただいて。ぜひね、しおさい公園、私も何回か行ったんですけど、動くものがほとんどないんですね。僕、実はウミウシ見たことないんです。実はこんな小さいそうですね。なかなか見れないんですよ。その撮影をされていることがあるんだと思うんですけど、そういうものを見せて

ですね、ぜひ。確かに水沢委員が言われるとおり、中の公園の庭というのは非常にきれいです。若い人はね、庭のきれいさだったら、京都や鎌倉へ行っても同じようなものですから、私はやっぱり葉山のよさ、それから葉山の夏以外の季節をどうするかという意味からするとですね、僕はやっぱりスキューバダイビングの魅力を発信していったほうが、僕としてはいいんじゃないかなと。できればね、京浜急行に交渉してもらって、古い電車を葉山に沈めてほしいなと。昔、議員に冗談言ったことあるんですけど、まだ山本副大臣が防衛庁の副大臣だったときに、できれば軍艦ぐらい沈めてくれるとありがたいんだけどね。というのは、葉山は沈船というのがないものですから、熱海のダイビングのスポットのよさは、沈船があるんですね。その沈んだ船が非常に魚の漁礁になって、人気があるわけです。ただ、熱海は、水深が40メートルぐらいあるそうです。ダイビングって幾つかの免許があって、40メートル以上潜れるというのはかなりのライセンスが必要だそうです。葉山はそこまで深くはないので、やっぱりそういう意味では魅力があるだろうと。

それと、西伊豆なんかではですね、葉山ほどウミウシを見れるチャンスというのは少ないそうです。葉山というのは、このダイビング業界では非常に葉山はそういう点で魅力的。僕も実際ウミウシというのはね、こんなでかい、茶色のね、紫のやつが増えたそうで、その話をしたら、これがウミウシというんですと言われて、葉山に住んでいて知識がなかったということを感じたんですけどね。この間私の知り合いがそのダイビングショップのところにお世話になると言ったんですけど、非常に設備が整っておられてね、ただ、ダイビングスーツを干すところがあまりなくて、大変らしいんですね、干すところ。ああいうのをぜひ何かの予算に組んでいただいてね、ああいうダイビングスポットのところね、スーツをかけられるところ、費用だけ助成するとかね、そういうようなことをしたら非常にいいんじゃないかと。太陽光でシャワーをつくるというのは危ないので、やめたほうがいいと思います。

ですから、そういう点ではね、冬という言い方は合っているかどうか分からないんですけど、葉山としての資源の中の一つなんじゃないかなと。最近特にそれを思うようになったんですけど。そこで、そういう方のご協力をいただくというのも、しおさい公園の中にどういうものができるかどうか分からないんですけど、一つの考え方としてはあるんじゃないかなというふうに思います。やっぱり、美術館は美術の物の価値のよさで来られると思うんですよ。しおさい公園の今の状態の設備だけではね、なかなかやはり増やすのは難しいだろう。

一つの考え方として、私は常にそういうふうに使っていたので、教育委員会とは全然関係ない部分なんですけど、最近そう思っているものですから、参考にさせていただければと思います。

町長) ありがとうございます。濱名課長、ダイビングショップ・ナナの学校での講演の件。さっきの下位委員の自ら学び行動するということについて、もしよかったら2点。お願いします。

学校教育課長) これから子どもたちが学んでいく上で、総合的な学習の時間の位置づけというのは大変大きいと思います。総合的な学習の時間の中で、探求的な活動を子どもたちが体験していくことは、学びを深める意味でも、非常に重要な役割を担っていくと思います。そういったところで、先ほど虫賀課長のご説明にあつたとおり、小中一貫教育、特に地域の方々と共に、どのように総合的な学習の時間をカリキュラムマネジメントしていくかは、本当にこれからのキーになると考えています。

先般、町長室へダイビングショップ・ナナの方に来ていただいて、ご説明を受け、私も大変感銘を受けました。本まで寄贈していただいたのですが、子どもたちが葉山ってどういうところなんだろうということ学んでいく上で、海の中から葉山の特徴を学習に生かすことができる可能性を感じました。あのお話を聞いた後、校長会議の中で早速ご紹介をさせていただきました。長柄小の益田校長が、この取組を子どもたちに教えたいということで、さっそくアポイントをとり講演していただきました。海の中から見ると葉山町がモチーフです。葉山の海の中に住む魚や写真を通じて学習します。本当にきれいな魚や生き物が住むということが改めて分かります。しかし、実際は10年前の海と比べるとこんなにも海の中が変わってきているという生のお話を伺うことができ、海の自然環境について子どもたちが主体的に考えるいい機会になりました。

その話を受けて、今度は南郷中学校でも継続して学びを育てていきたいということで、今年度中にナナの方をお招きして、講演会を実施するという話も受けております。このように小・中がつながりを持ちながら学習していく流れを今後さらにつくっていけるといいかと考えております。

町長) ありがとうございます。あと、下位委員の今の学生さんの現況について、小・中の場面か何か、お感じになられたことありますか。

学校教育課長) そうですね、葉山小の学校目標にもございますが、ここがとにかくこれからのキーポイントになっていく部分かと思えます。午前中、定例教育委員会の中で学校視察の報告にもございましたが、答えありきの授業というか、教員の投

げかけによってこともたちから答えが返ってくるその往復のみで授業が成り立っている授業が多いと感じています。これから求められる子どもが主体的に考える授業にまだまだ改善できてないなというふうに思っています。これから子どもたち自らが問いを出せるような授業に転換していく必要がありますので、各校の校内研究を充実させながら、授業改善に取り組んでいくことが大事だなと考えております。

自分で考える授業は単発な取組みではつながっていきませんので、小学校から中学校への積み重ねが重要となります。そういった意味でも小中一貫教育の重要性は、これから求められるところだと認識しております。

町 長) ありがとうございます。鈴木委員、先ほどのウミウシの件は、実は 90 周年の記念誌の背表紙というんですか、あそこにアオウミウシを載せていただいたりとかですね、先日もダイビングショップの方、ナナの皆さんと、それから漁協のメンバー、潜りをしているメンバーとですね、あと私も行ったんですけども、ウニつぶしをしてきたりとかですね、産業振興関連では何かと連携をして、海中を、さらに彼らは、おっしゃるとおり海中の葉山の様子を発信してくれるので、例えば藻の養殖をしていたりとか、ごみの回収をダイバーとしていただいたりとか、活動してくれていることと併せて発信をすることが、町の魅力の向上にもつながりますし、海中から葉山を守っていく啓発ができますので、教育の場面でもそうですし、我々大人にもですね、こういった普段目に見えない世界ですけれども、ある意味、残念ながら魚がすごく減ってしまっている現状だったりとか、でもその中に美しい世界がまだあるんだということで、発信をしていける力をぜひ彼らには出してほしいと、貸してほしいということはいろいろとお話ししてますので、もし皆さんからもこの機会がありましたら、引っ張ってあげていただいていると。すごく公共心の高い方でもあるので、本当に気兼ねなく来ていただきたいと思えますから、ぜひ皆さんからもしていただけたらありがたいなというふうに思います。日常我々、どうしても海上の富士山、ヨット、あと山の美しさですけど、海中の話、なかなかできないので、写真もいっぱい撮ってますから、パネル展示もお願いすればやってくれますし、町の施設で、庁舎でもたまにやっていますのでああいうのもいいことだなと思いますので、ぜひ財産として活用していきたいなと思っています。

鈴木委員) ぜひお願いします。

町 長) はい、分かりました。

下位委員のお話になるんですけども、今日は専門の方々がいらっしゃいます

ので。私自身、大人になって、もっと学べる機会があったらよかったのという方が、すごく多いのを肌で感じていまして、すごく勝手ながらの視点なんです。教育に対するありがたみといいますか、今回実はですね、コロナ禍で学校に行けない、学べない小・中・大学生たちの声がたくさん聞こえてきますが、その中で、私がちょっと今まで思ってきた教育の機会というものが奪われたときに、人間がもう少しモチベーションを上げてくれるんじゃないかというものに何かいい方向に働くといいなと勝手に感じているところではあります。私の勝手な思いですけども、どうでしょう。

小峰委員) ちょっと感想や意見、いろいろばらばらになってしまうんですけども。自分が第三次総合教育プランについても教育委員会の中で検討した立場なので、今さらになっていうのはおかしいのですが、施策の体系の1から12まで見ると、1から7までのところでは何か夢というか、思いが伝わる表現がされている体系になっています。例えば未来につなげるとか、新しい時代に必要となるというのに、8番以降それが入ってなかったなということを感じましたので、例えば誰でも学べる生涯学習の振興とかというのを、そういう言葉を入れればよかったのかなと。そうすると、もうちょっと伝わるものがあったかなということをちょっと思いました。

今、総務課からの学校といろいろ連携を図りながら、小中一貫教育の在り方検討会も積極的に進めていられるとのことで、今日ここで見せていただいたように、町制100周年のときにはもうある程度、一貫校開設の準備には至るといふ、思いがあるというのは、これは本当に期待したいなというところです。

小中一貫校で、教育の連携が図れる、それから子どもたちを見る目が、小中で一貫して見られるというのは本当に大事だと思うんですね。そこで今、ここに積極的に書かれていないんですけども、支援教育に関わって、支援センターみたいなものが、町の中にあるといいなと考えています。今、葉山小学校の中にあることばときこえの教室が、そうしたことを全部担っているようなところもあるようにも感じるんですけども、あそこはそこで子どもを指導することに専念できるようにし、いろいろな子どもの支援の必要性を分析したり、どういう支援が必要なのか。子どもの困り感、親の困り感を受け止めたり、そこで適切に振り分けるなど、新しい進路を探してあげられるような支援センターみたいなものが、もう一つ考えられるといいのかなと思います。ヤシの実を紹介しましょうとか、また別な民間施設も、こういうところもありますよとか、あるいは中学を卒業した後の進路について、こうしましょうとかというような、

機能を持つところがあるといいなというのは思いました。それは小中一貫教育ができるようになったらば、支援センターのような果たす役割は、すごく大事になってくるかなと思っているからです。

それから、総合的な学習の時間の大切さを虫賀課長がつくばに行っているいろいろと視察をしてきた中でも言っていたんですけど、本当に葉山は、素材はたくさんあると思うんですよ。いろいろな総合的な学習の時間にしろ、ほかの教科にしろ。ただ、先生方に、素材はいっぱいあっても教材化する力がないと、それこそやっても探求的な学習のふりをしながら、やっぱり先生がルールを敷いた活動をしたり、まとめをしたりになってまうので、ぜひ素材をどう教材化するかということをしっかり学んで、教師の力として、子どもたちから引き出す力、何を引き出したいのか、この素材にどういう意味があって教材にできるかというところを見ていく力をぜひ育てていただきたいなと思います。

素材の教材化というのは、ちょっと抽象的な言い方で分かりにくいかもしれませんが、例えば学校視察をしていて思ったのですが、1年生のアサガオの栽培、アサガオはみんな同じ鉢に植えて、同じような支柱を立てて、きちんと並べてあるんだけど、隣のアサガオのツルが絡まっていますが、子どもたち困ったなと思わないのかなという光景がありました。つまり、アサガオといういい素材には、どこに成長のポイントがあって、ここは絶対子どもに気づかせたいな、植木鉢の置き場所を子どもはどこにするだろうかなど、先生たちもいろいろと考えると、アサガオを教材にする意味って、数多くあると思うんですね。

だけど多分、セットで鉢を買いました。土を入れました。人指し指の第2関節ぐらいの穴を掘って種を植えましょう。お水をやりましょう。毎日見てね。双葉が出ました。つるが伸びてきました。じゃあ支柱はこれを使いましょう。このような流れで指導していたら、子どもたちは育てていくのは楽しいかもしれないけれども、花が咲いてきたから、夏休みになったので家へ持って帰って、毎日花が幾つ咲いたか書きましょうで終わってしまうんですね。

子どもたちがアサガオを育てることを教材にするということは、子どもの活動を細かく想定することです。子どもはきっと、自分のアサガオが一番日当たりのいいところに持っていきたいから、こっちへ動かす。あっちへ動かすと、みんなきつとばらばらにアサガオを置くようになる。だけど、僕もここに置こうと思ったのに、いい場所取られちゃったとかという声が出て来たら、先生が整理して、じゃあ、みんなここに置きたいんだったら、少し離して、こうやって置こうとか、みんなはどうする。そういうことまでしてアサガオを育てる

ことが、教材化する意味のあるとだと思っんですね。素材をどうやって教材にするか、学習する内容がどこにあるのか。ポイントはどこにあるのか。子どもたちからどういう力を引き出せばいいのかということを研究する必要があります。素材として、葉山の海もいいし、山もいいし、いろいろな施設もいいし。だけどその中で、本当に学ばせたいものは何なのかという、そういう見目を持って、総合的な学習の時間に取り組めるような教師側の姿勢ができれば、お2人の課長が期待しているような、探究的な総合的な学習の時間が子どもたちに力をつけていくものに育っていくかなというふうに思いました。ちょっととりとめのない話で申し訳ありませんけど。期待できるところはたくさんあるので、取り組んでほしいなというところを申し上げました。

町長) ありがとうございます。確かに1番から6番までは「未来に」とか「新しい」「豊かな」、すばらしい形容動詞が並んでいるんですが、途端に7番にきたら、8、9、何にもなくなるというのが寂しくなりますので、次期の課題として、改めてご指摘をいただいたなと感じました。ありがとうございます。

それと、先ほどのFGC活動についてもそうですけれども、今、小峰さんがおっしゃったような、ああいった社会との交流、協働という観点もあるんですけども、キャリアに対する学びを中学生レベルで行うという意味では、非常に価値があることだというふうには思っております。今後、小中一貫の中でですね、高校・大学も進路の段階で自分のキャリアに対する意識が芽生えることは、すごくいいことだと思うので、それこそFGCなり葉山中学校なりへの社会との交流を、そういった視点で広げていくのも大変面白いんじゃないかというふうには思いました。

それから、後段の件なんですけれども、私も実は大綱の中で一番、先ほどご指摘させていただいた下から5行目の指導体制の充実。教員のそもそもの人数と、その資質の確保、これは全国的な命題だというふうに昨日お話を伺いましたけれども、教育する教育者側の資質の向上について、まさに今、小峰さんのお話も、大きく捉えればそういう話になるんだなと感じました。ぜひとも、どう対応していけばいいのか、私も正直分からないところがあるんですけども、決して欠かしてはいけない、将来葉山のみならず、日本の国力に大きく関わる話ですので、ここだけはぜひ葉山からでもですね、いいモデルを作って重ねていくような町でありたいと思っております。

続けて皆さんからお話ございますか。よろしいですか。

水沢委員) しおさい博物館と県立近代美術館についてですが、2年前に「貝の道」とい

う展覧会、特別展の企画をしました。しおさい博物館には海洋生物学の研究で蓄積があり、貴重な資料を収集保存し、それについての情報をお持ちです。美術品に貝がどんなふうに使われるか？そういう問いを設定して、美術館と博物館の対話のようなものが成立するのかという試みでした。

なかなか難しいテーマであり、結局、歴史的かつ民俗学的な枠組みも必要でした。貝というものは「貝貨」とも呼ばれ、長いこと貴重な存在として貨幣としても使われていたのです。シルクロードのように「貝の道」というものも存在するのです。海辺ではたくさんあり過ぎて貨幣にならない。山に運ぶと価値が上がって貨幣になる。そういう文化的な部分があって、それを分析するためにはどうしても文化人類学のサポートも必要だったのです。それは近代美術、現代美術をフィールドとする学芸員には能力を超えた壮大な広がりです。ということで大阪にある国立民俗博物館と協力し、しおさい博物館の学芸員とも協力し、学校とも連携して美術史学と文化人類学と海洋生物学を横断するようなテーマでの展示を葉山館で挑戦してみたのです。いまから思えばもう少し葉山町ともじっくり計画して、事前に話し合いをしておくべきだったと思います。そうすれば夏休みの教育普及プログラムをさらに充実させることができたでしょう。そこからさらに掘り下げて、継続的な共催事業として成長させることができたでしょう。もちろん、これからもその可能性はあります。

そういうことを考えると、葉山の自然の豊かさを生かしながら、それを発見していく美術体験、博物館体験、あるいはそういう公園のようなもの、人工的な環境も経験して、そういうものを教育の中を組み込めるという可能性はある。それはまだもう一回チャレンジしてもいいのではないか、そのためにはら3年ぐらいの準備はやはり基本必要です。ですので、それをもう少し情報交換を含めて、コンセプトも含めて、一緒に葉山町、神奈川県、それからもう少し専門的な他領域の博物館にも協力してもらおう。それはかなりやる意義がある。これこそやる意義があるというふうに思った展覧会だったのです。今後この継続も考えたい。しおさい博物館とはすでにその経験があります。それを未来に向けて生かすということも考えるべきかと思います。

そして、この継続性が、この小中一貫校という形になって、すごく問われることになるでしょう。教育の成果というのは、ある時限で区切ることによって、評価もしやすくなるわけだけれども、長くすると非常に評価しにくくなります。言ってみれば、非常に複雑な混ざり合いをしながら、でもどこかでひとつ基点というか、しっかりとしたものを押さえておかないと、やはり長くなるとわけ

が分からなくなって、どこを、何を、どのようにやったのだろうという、長い目で、迷子になってしまうことになりかねない。そのためのプログラムをどう作るかというのを、芸術鑑賞というポイントだけで考えると、一番大事なのはパーマネントな作品の展示、常設のコレクションを持っているということに尽きるのです。優れた文化圏というのは、常設のコレクションを持っている場所です。劣った場所というのは、そういうのが絶えず目まぐるしく変わって、誰も継続的にそれを反芻できない。なにかあったなと思っても記憶に残っていない。ルーブル美術館展って、あれ、どこであったのかしら？みたいになってしまって、経験が反芻されなくなるのです。日本の文化イベントの最大の欠陥は、そこです。だから、いつのルーブル展を見たのかも覚えてない。僕らでさえ覚えていないほどです。やりすぎるのはいけない。借りてきて、ご開帳みたいなことになっている。イベントになってしまっているからです。それも意義はあるのですが、そればかりやっていると、目先ばかりになってしまうのです。そうではなくて、パーマネントのものを葉山町として持つという目標を掲げるのも大事だと思います 100 年というのはすごく大事な区切りなのではないでしょうか。

夢物語みたいな話なります。パーマネントの一番効果的なものは彫刻です。絵というのは、飾ってあってもときどきしまわなくてはならないのです。ルーブル美術館に行けばモナリザがあるというふうになっていますけれども、あれはあまりにも人気があるので、基本しまわないのです。外国にも貸さないのです。ヨーロッパの文化の形成の仕方というのは、モナリザのような名画は動かさない。動かせるものとは、格が違うわけですね。そうすると、パリに生まれた子は、子どものときからもう毎日のようにモナリザを見て育っているわけですね。高齢になって、もう死ぬというときにもまた行って見ることができるのです。そうすると、その経験の分厚さみたいなのが子どもたちとかに伝わってくるのです。そういう意味では、本当のすぐれた作品をパーマネントに展示するためには、日本の場合、紙や絹のものというのは、長く並べてはいけないというか、展示できないのですね。季節ごとに変えるというのが通例です。パーマネントではないのです。でも、石庭とか石の彫像とか、そういうのはパーマネントなのです。奈良に行けば運慶の彫刻（木彫ですが）をあるので、運慶の彫刻を小学校のときに見て、また大人になって見て、何度見ても飽きることなど絶対にありません。モナリザのレベルですから。そういうものをいきなり葉山町が持とうというのは無理だとは思いますが、でも、100 周年という区切りの

ときに、小さくてもいいから、何かとてもすぐれたモニュメントを、言ってみれば海側には近代美術館があって彫刻がありますから、山側に何かすごくいい、町民に愛されるようなモニュメントを作るということも一つの考え方だと思います。

イサム・ノグチという人が死んだときに遺言を書いています。イサムは、死ぬ前に作った最大の作品は、「スライドマントラ」という作品なのです。それは丸い、らせん状の石の滑り台なのです。それを自分の愛弟子の和泉正敏さんに、あなたは3つ作っていいと言い残したのです。私と一緒に作ったから。私が死んだ後に、あと2つ作れると。でも、もう1つ作っちゃったから、あと1つ作れるのです。ということは、ただ和泉さんももう83歳になってしまいました。この話、町長に申し上げたことがあるように思います。

町長) よく覚えています。

水沢委員) そのときは、もう彼は78歳ぐらいで、もう僕は作れない。もう時間がなくなったといっていました。チャンスはあると云っておられました。でも、例えば、イサムの「スライドマントラ」みたいな名作が葉山に1つあるとなると、海にはすでに中期の代表作のひとつ「コケシ」がある。山には「スライドマントラ」というような形の何か対比とモニュメントがあるということになる。それは葉山町に生まれた子どもには絶対記憶に残るし、もし葉山を離れて戻ってきても、そこに行ったら子どものときのことを思い出す。これは小中一貫の9年間というのは、人間が大人になっていく一番激しく変化する9年間で、芸術に目覚める時期です。目覚めた子が、例えば小学生、4、5年生でそういう忘れられない経験をえることになる。高校生のときに、いろんな悩みがあって、そのときにまたそれを見ることになる。とにかく一流の作品は、そういう人間の悩みや苦しみに対する何かインスピレーションとか、慰めとか、励ましとかたくさんのものを与えるのです。それは教育の目標になっている「VUCA」というのでしょうか、何かわけの分からないことが起きても動転しない。何かインサイドというか、内面で洞察を持ち続ける力をあたえてくれる。芸術が持つ力ですよ。そういうものを葉山の中に、海側と山側にあるというのが僕の理想的なイメージです。クラウドファンディングとか、そういうものができなかないかと思ってしまうのです。ただ、とりあえず2億円ぐらいという必要だと思います。最低限、スウェーデン産の黒御影石とか、あのレベルの石はどうしてもいるので、佐島石で造ろうというわけには、残念だけどいかない。何かそういうモニュメントを作ってみる。町民にも寄付を募る。一緒に作ってみる。

できたときに子どもたちと一緒に見に行く、そして繰り返し一緒に味わうことができるようなものが生まれたら、本当に素晴らしいなと思います。半分夢物語ですけど。

町 長) ありがとうございます。私も水沢さんからお話を伺って、素晴らしい、いや、もっと海と連続性を持たせるお話だと思ったんですが、金額を聞いて、びくついたまま、はや5年ぐらいたって、大変申し訳ありません。ただ、コロナでいろんなものが止まる中で、文化・芸術が一番初めに止めなければいけないものだという声が上がりがりながら、一方で人間が人間らしくあるというのが文化・芸術であるという話があると、本で読んだことがあります。単純に感染症を恐れるだけで、一人一人がばらばらに生きていってしまっは人間社会は成り立たないので、最低限の経済は回すけれども、必ずそこに人間が心として持ち続けるものが文化・芸術なんだ。だから、ここを止めちゃいけないんだという強い声があることも承知しておりますので、我々が葉山に生まれて、御用邸がある町として誇りに思って育つように、葉山の文化、葉山の芸術によって、誇りを持ちながらこの町のアイデンティティーを持っていけたらいいというのは、私、本当に賛同をするところでありまして、水沢委員がここにいていただけることに感謝をすることではあるんですけども、100周年、3年後に、臨御橋じゃ2億円集めるというのできなかったんですけども、私も賛同している一人と思います。ありがとうございます。

教 育 長) 午前中も教育委員会をやっておりましたので、そこも含めていろいろな話を伺っている中で、今日お話を伺った中のところでいくと、1つはやっぱり町長があえて文言を言っていたと思うので、基本的にまず、町民の育成というのは人づくりですから、単純に言うとその中の資質向上をどうさせるのかというのは、この教育委員会の仕事だと思っっていますし、今回の小中一貫校という一つのフレームワークの作成理由については、単純に言うとなんか目の中の仕事をやり続ければ年は過ぎていくので、これをやり続けてきてしまった、さらに言うならば、そのこのところのスケールを、残念ですが私たちの年代の人間たちは教育の部分で、これでいいんだとっって平成の30年間つくってきてしまったという責任が私たちにはあるからです。違うスケールを作り直すのは、多分町長も言われたとおりの、このコロナというところでの、どう何を変革させるのか、これは文化・芸術というところにもう一回立ち返っていくという考え方がすごく大きな考え方だと思っっています。

昨今非常によく言われるのは、ウェルビーイングという物の考え方ですね。

いわゆるウェルビーイング、簡単に言うとすごく幸福感というところで日本語にしてしまうことが多いですけれども、生きていく中で、これは何歳であったとしても、自分が生きている価値というんですかね、虫賀課長もお話をいただいた中にも出てきたとおりですけれども、いわゆる自分自身が自己肯定感を持ち得ないような日本人たちがあまりにも多くなってしまった。そんな中のところで、これは下位委員が言われたとおりの、教員だけではないかもしれませんが、逆に言うと教員が通常の人になるよりも、気づきを受ける要因が目の前にたくさん存在しているので、本来は言われたことだけをするのではなくて、子どもたちをしっかりと見ることで、自分たちがどういうふうに変わっていくのかと、いくらでもヒントが実はある。ですから、教員は変わらなければならなかったんですが、残念ながら指標となるものが違うところにあったというところに、教育の中の大きな問題点があったんだと思っています。

実は、昨日の夜、オンラインで 11 時ぐらいまで全国のいろんな人たちと話をしていることが多いんですけれども、昨日話していた有識者の話題は何かというと、「進路指導」でした。この進路指導というのは一体何かというと、これもさっき話したところに確実につながるんですが、何をもって成功と言える進路だったのかというのが中心的な話題でした。仮に日本の中では東京大学の学部に入学することが一番幸せになる方法なんだというふうに、勝手な神話を作ってきた部分があるんですね。ただ、残念ながら、これも下位委員言われたとおり、東京大学の学部に行っても、実を言うと東京大学の学部って、専門領域を駒場での 2 年間では教えてくれない大学なんです。ですから駒場があって本郷があるんですね。駒場で専門領域、一切教えてくれません。ですから 2 年生まで一切そういうことをやってくれないんです。3 年になってゼミ的な部分になって、ようやくと少し専門領域に近いことを教えてくれるようになる。だから、東京大学は最終的に本線はどこにあるかということ、学部卒業後なんですね。ですから、東大に行って卒業しても、結果的に何があったのかということ、かつては官僚になればよかった。法曹界に行けばよかったし、そういう中で自分自身の経済的な資格レベルも含めて充足させる世の中があったんですけど、今はそれがなくなってますから、残念ですが、そうではないよねという話の中から、昨日話がスタートしていました。Zoom だったんですけど、そこには高校生、現役の高 1 の子も発言をしに来てました。その子は進学校に通っているそうです。高校生です。僕は先生たちからお勉強はできるって東大や京大や早慶に行けと言われるんだけど、僕が行きたい大学はそこではないんです

よねということを一生涯おっしゃってました。ただし、すごく本人が困っているのは、簡単に言うと、行けばいいんですよ、自分が行きたいところへ。ところが、何に困っているかという、同調圧力なんです。これは何かというと、家の中でお父さん、お母さんに言われる。これはお父さん、お母さん、神話を信じているわけですね。

もう一つは、学校の中で、みんなが東大に行くとか京大に行くんだということを声に出して言う、あるいは先生たちもそれがいいんだということを言う中で、自分はやりたいこと違うんだけどなというのを、すごく言いづらくなって、本当に嫌なんですという話を昨日高校生がしていました。

これ、考えてみると、やっぱりですね、どこかのところで子どもたちを教員が一人一人をもっと見なければならぬ、現状認識を本当にしなければならぬと言いながら、教育をしてきてないということにほかならないんですよ。でも、そうなってしまったことを切り換えるすごくいいチャンスだと思ってますし、今回の小中一貫校も子どもたちをつくっていくときの一番の重要なところは、実を言うと、今、文科がようやくそこに手をつけ始めて、こども庁をつくるというところの一つの物の考え方になっている、いわゆる幼保プラス小学校、それから中学校、ここまでの義務段階全てのところをどう接続していくのかという観点が非常に重要だと。小学校、中学校のところ、単純に言いますと、小学校の入ってきたときに、しばらくはもしかすると同じ動きをしてくれないと先生方はお困りになるのかもしれない。それも必要ですけども、そうでないことも必要だということを、やはりある意味でそこは先生たちが違うレベルからの同調圧力を怖がっていますから、必ずフレームの中に入れたいと思うんですね。さっきの小峰先生のアサガオの話なんて、まさにそうだと思いますね。

そういうことでないところに話を誰が持ってっていくのかということ、今、濱名課長とよくしゃべっているのは、実はそれを換えられるのは、文科が言っている「校長のリーダーシップ」そこにあるはずなんです。校長が外向きでない以上は、簡単に言うと、これ絶対に変わらないです。校長先生たちがどんどん外の考え方を自分の中に取り入れて、そして何かをしようというところのアクティブな物の考え方を持ってくれる管理職をまずつくらぬといけないよねというのを、課長とはよく話をしています。そんな中お一人お一人の先生たちがそれに気がついていただいて、もっと言うと目の前の子どもたちを本当にしっかりと見ていただくということになっていくと、下位委員がおっしゃっていたいたりとか、当然ながら小峰委員がおっしゃっていたところの教育の

ファンデーションの作り、比較的実を言うと、ちょっと前までは、変えるの、すごく大変だろうなと思っていたんですよ。ところが、コロナになっちゃったので、意外といける可能性はあるなと実は思っているんですね。

ですから、そこも含めて葉山の小中一貫校の物の考え方は、フレームもそうですが、そのロジックと、それから内容論を、とにかく虫賀課長がおっしゃったように、できるだけ今年中に明確なものとして、それを皆さんが理解していただけるように、どうやって、ゆっくりでいいんですけど、説明をしていく中で、もしかするとこれも支援センターの話も出ましたが、どうやってアセスメントをしていくのかというのは、今ちょっと複雑怪奇になっているのも事実だと思いますので、しっかりとアセスメントをするべきところ、これは町部局のところとの連携も、今もとっていられるのは当然分かっているんですが、それ自身がセンターという機能が明確に外に出ていけば、より分かりやすいものになる。もっと言うと、9か年の小中一貫校の中にインクルーシブの考え方は当然そこに入っていきのが当たり前であるという物の考え方の中のところで、小中一貫校をつくっていくというところを考えていくことで、きっと町制100周年のころには町民の方々も、葉山の小中一貫校、楽しみだねと言ってくれるようになってくれるように頑張らなければなというふうに思った次第というところでしょうかね。とりとめのない話で誠に申し訳ないんですが、とにかくそのところは何とか頑張らないといけないだろうし、皆さんがそう思ってくれないといけません。そこがすごく重要です。

もう一つその中で一番の抵抗勢力になるのは、「学力とは何であるか」というところの定義を明確にしなければならないということです。さらに水沢委員がおっしゃっていただいたとおり、定点観測をどうやってやるのかということです。よく、昨今言われるエビデンスの話ですけれども、学力の、何を学力として葉山としては捉えるのか。もう、それは簡単に言うと、私の考えで言うということよりは、単純に、小さな世界を変えても駄目なので、民間活力をフルに使うべきだと思います。私たちよりもずっと知っている人たち、山ほど、知っているし、研究している人たち、有識者の中にいっぱいいますので、そういう人たちと一緒に定点観測をして、保護者の方々にも町民の方々にも、間違っているどころか、すごくいいですよと言われる状況に持っていくというのは、すごく重要ななと思ったりしています。

すみません、これも夢物語でないようにしなければいけないので、頑張りたいと思います。

町 長) どうもありがとうございました。ちなみに8月5日、午後から中高生議会が
ございます。先日、私、葉山中学校にお邪魔して、生徒会の方々とお会いして
きましたけれども、年々と言ってしまっはこれまでの方々に失礼なんですけ
れども、タブレットをぼんと前に置いていただいて、パソコンですね、置いて
いただいて、1人の方が指で動かしながら、それぞれがプレゼンテーションを
していくという、すばらしい中学生だなと。ますますレベルが上がったのかな
と。何かレベルと言っては失礼なんですけれども、そういうものを感じており
ました。皆さんお時間ありましたら議場のほうにお越しただけたら大変あり
がたいと思います。

ほかに皆さんから何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。事務局
から何かございますか。よろしいですか。

それでは、時間も大分、1時間半超えてしまいましたので、協議案件(2)
その他につきましては以上で、これで終わりたいと思います。

それでは、事務局のほうにお返しいたします。

(閉会宣言)

教育部長) ありがとうございました。それでは、以上をもちまして令和3年度第1回葉
山町総合教育会議を閉会いたします。次回の日程につきましては、決まり次第
ご連絡をさせていただきます。

時刻は午後3時26分でございます。お疲れさまでした。